とちぎの企業力 110

工場内環境 空調で守る

高い技術力 コンサルも

田崎設備―真岡 田崎利也社長（60）

祖業の食料品店向け冷凍機卸を経て、現在は工場などの空調設備を事業の中核に据える。技術力の高さが評判を呼び、関東を中心に新規顧客を次々と獲得。ニッチな分野で年々売り上げを伸ばしている。（吉田隆則）

創業は1975年。宇都宮市氷室町の自宅の脇に、先代で父の故健行氏が事業所を構えた。「町の冷凍機屋」として、当時急速に増えていた鮮魚店や肉店など個人商店に卸す冷蔵ケースを仕入れ、付随して店舗設備の施工も手がけた。

生き残りかけ

時流を捉えた事業はすぐに軌道に乗り、冷凍機メーカーからも表彰された。だが長くは続かなかった。コンビニエンスストアの台頭で、顧客は次々とコンビニに加盟するか、廃業を選んだ。先代が病に倒れ、87年に入社。当時は「創業から十数年で顧客が激減し、じり貧だった」。生き残るには従来のビジネスモデルからの脱却が必須だった。

転機は約30年前。「何か新しいこと」を模索する中、真岡市内の食品会社から工場内の温度や湿度を一定に保つ空調設備の施工業務を受注した。以来、積極的な営業で食品製造業者を中心に顧客を開拓し、経営を安定させた。

ニッチな部分

1～2億円で推移していた年商が急成長を遂げたのは2013年。同市内の企業から

田崎社長は宇都宮市出身。日大法学部卒。県内の電気設備会社で2年間施工業務を経験した後、1987年に田崎設備入社。創業者の父健行氏の死去に伴い98年、社長に就任した。若手従業員の育成の一環で、2017年から技能五輪の冷凍空調技術職種に選手を派遣し続ける。「出場することで技術への理解が深まる」と語る。本社は真岡市長田1の2の9。従業員は15人。2022年10月期の売上高は約6億2千万円。

の受注を機に「局所排気装置」を手がけるようになった。労働安全衛生法で設置が義務づけられている装置で、工場の作業員を有機溶剤や化学物質、粉じんから守る。初めて取り扱った際は戸惑ったが、労働基準監督署に通い、工場全体の空気を循環させるために必要な設備や、作業員の業務を妨げない配置の仕方などノウハウを培った。

外気を取り入れながら室内の環境を一定に保つ「外気導入空調」も積極的に提案する。施工上の制約が多い危険物貯蔵所の空調にも独自に応用し、施工事例として自社ホームページで紹介すると大きな反響があった。東北や九州の企業からも問い合わせがあり、化学メーカーを中心に受注を増やした。他社との競合が少ない「ニッチな部分での強みを生かしたい」と話す。

新型コロナウイルス禍や海外情勢の先行き不透明感などから、製造業は「国内回帰が進み、設備投資は増える」と予測する。空調設備を通して、顧客の脱炭素化を目指すコンサルティング事業にも本格的に乗り出した。「さまざまな側面から日本の製造業の発展に貢献したい」と意気込む。

取材を終えて 社業に就いた当時は顧客が減り続けていた。世間がバブルにわく中、自身の境遇は対照的だったという。そんな苦しい時期を振り返る今の表情は明るい。新事業の道を切り開き、着実に業績を伸ばしてきた自信がうかがえた。「顧客にリピートしてもらうための努力はするが、1円でも安く、と妥協するような仕事はしない」。ニッチな強みを武器に今後どんな成長を遂げるのか、注目し続けたい。

28日から「週末無料」

東武鉄道、日光・鬼怒川で 市外在住者対象、パス配布

東武鉄道は28日から2月26日までの土・日曜と祝日の計11日間、日光市などと協力し、日光・鬼怒川エリア内の鉄道や路線バス、一部の東武グループ施設が1日無料になる「日光・鬼怒川エリア週末フリーデー」を実施する。各日先着600人限定で、同市外在住者が対象。今月16日午前10時から申し込みを受け付ける。

東武鉄道グループと同市、同市観光協会などで構成する実行委員会の主催。冬の同エリアの魅力を発信し、誘客につなげる狙い。

日光地域の鉄道やバスなどをワンストップで予約・決済できるスマートフォン専用のサービス「NIKKO Maas（日光マース）」から申し込む。

フリーパスを提示すれば東武日光―下今市―新藤原駅間の普通電車が乗り降り自由となるほか、日光・鬼怒川エリアの路線バスや「明智平ロープウェイ」などが無料で利用できる。また、日光湯元温泉スキー場のリフト料金無料や、協賛の観光施設、ホテルなどでも割引や特典がある。

イベントに合わせ、JR八王子駅と東武日光駅を結ぶ臨時特急列車を運行する。1月18日～2月28日はスマートフォンでスタンプを集めると景品がもらえるデジタルスタンプラリーも実施する。（吉田隆則）

日光・鬼怒川エリアの鉄道や路線バスなどが無料となるフリーパスのサンプル画像

とちぎ経済

農林中金と全森連

CO_2の排出枠販売を仲介へ

3月末、仕組み創設

農林中央金庫（農林中金）と全国森林組合連合会（全森連）が、全国の森林組合が管理している森林の吸収する二酸化炭素（CO_2）をクレジット（排出枠）として、地球温暖化対策に取り組む企業に販売を仲介する仕組みを3月末めどに創設することが12日、分かった。

販売で得た資金は森林の維持管理に充てる。

森林は植林から木材の販売まで数十年かかるうえ、近年は木材の販売収入に対してコストが増加しており、再び苗木を植えて造林することが難しくなっている。排出枠の販売で新たな収入源を確保し、持続的な森林管理につなげたい考えだ。

この仕組みは、再生可能エネルギーの導入や森林管理などでCO_2の排出量を削減した企業に対し、国がクレジットを発行する「J-クレジット制度」を活用する。クレジットを購入した企業は、自社でCO_2排出を減らしたと見なせるほか、環境保全への貢献をアピールできる。

宇都宮のニッカネ

卸売事業を譲り受け

デリシードから従業員も

業務用食材販売のニッカネ（宇都宮市平出町、金田陽介社長）は、同業のデリシード（宇都宮市御幸町、大類良一社長）の事業のうち卸売事業を譲り受けた。昨年12月1日付。

ニッカネは、デリシード本社の一部を御幸営業所とし、宇都宮市内を中心とする顧客と同事業の従業員を引き継いだ。担当者は「県内の食を支えるため、地域に根差したデリシードの事業を引き継いだ。引き続き、食を通して地域に貢献したい」と説明した。

デリシードは2021年、渡辺商事から社名を変更した。同社の総菜やドレッシングなどを手がける食品製造事業は継続する。

ニッカネは、上三川町石田の上三川インター南産業団地に本社と宇都宮支店の用地を取得した。創業50周

県経営者協会が新春会員交流会

経団連・正木氏が講演

県経営者協会（青木勲会長）は12日、宇都宮市内で第44回新春会員交流会を開催し、会員約100人が出席した。

来賓として、栃木労働局の藤浪竜哉局長や県幹部らも出席した。

正木氏の講演に耳を傾ける会員ら＝12日午後、宇都宮市

ペットと泊まるトレーラーハウス

日光にオープン

トレーラーハウスの製造販売や運用を手がけるソラリゾート（東京都千代田区、佐竹彩社長）は2月2日、日光市大桑町にペット宿泊できるトレーラーハウス「Solana（ソラナ）日光」をオープンする。

トレーラーハウスは3棟あり、約120平方㍍のプライベートドッグランも併設する。室内の広さは約40平方㍍で、それぞれ5人まで泊まれる。いずれもダイニング、寝室・ロフト、風呂、トイレを完備。炊飯器やコンロ、食器などもあり、料理を作ったり、ウッドデッキでバーベキューを楽し

政経部経済担当 電話028・625・1060 ファクス028・625・